

令和8年度 長崎市立三重中学校 学力向上プラン

県の成果指標 柱1:一人一人に応じた最適な学びを提供する(成長の基盤となる資質・能力の育成) ※目標値:令和10年度までに全国平均正答率以上 市の成果指標 ・夢や目標をもっている小中学生の割合(82.6%) ・ICTの活用によって、学習に取り組む意欲・態度が高まった小中学生の割合(80.0%)	学校教育目標 『確かな学力と健やかな心と体を持ち 自信と誇りをもって行動する生徒の育成』 目指す生徒像 ○目標達成のために主体的に考えることができる生徒 ○目標達成のために協力できる生徒 ○目標達成のために粘り強く取り組む生徒 生徒の実態 全学年ともに学力調査の平均を下回る。 ①基礎的な学習内容の未定着 ②家庭学習の不足 ③学力の2極化 ④読み取る力の不足 ⑤粘り強さの不足 ⑥困り感をもつ生徒への個別支援の必要性
本校の成果指標 ○各種学力調査において、前年度の結果から国・県・市とのポイント差を3ポイント縮める。 ○家庭学習に、1日あたり30分以上取り組む生徒の割合50%を目指す。	



授業改善・校内研修の充実 「 確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成 ～規律の徹底による学習習慣の確立と、家庭学習と授業をつなぐ授業を通して～」 ○各教科による基礎・基本の洗い出しと到達目標の設定 ○授業の流れを「見える化」し、「めあて」の提示と「まとめ」を意識した実践 ○家庭学習の習慣化と内容の充実 ○支援が必要な生徒への手立て ○生徒が主体的に取り組む教材や授業形態の研究
--

学習意欲の向上・家庭学習の充実	基礎・基本の徹底	思考力・判断力・表現力の育成	家庭・地域との連携
○キュビナによる週末課題の実施 ○単元テストによる繰り返し学習 ○指導の評価と改善 ○ICT(キュビナ)の活用 ○学習の「振り返り」の実施	○授業規律の共通実践 ○長崎県授業改善メソッドの活用 (「めあて」「まとめ」の提示) ○ICT(キュビナ)の活用 ○「全校週末課題」の実施	○各教科による言語活動の充実 ○読書活動や生徒会活動・学級活動等における言語活動の充実 ○学力調査問題を活用した授業実践 ○教え合い活動の実践	○各種通信・ホームページによる情報の発信 ○育友会活動や四校連絡会との連携 ○校区内小学校との連携



今年度の重点実践目標(学力調査の結果をふまえて) スローガン 読む・書く・挑む で「ゼロ」へ (テストの空欄「ゼロ」・家庭学習0分を「ゼロ」) ○「読解力」の育成と「あきらめない姿勢」の確立 ○授業とつながる「家庭学習の充実」
--

各教科による具体的な取組	
国語	単元ごと教材ごとに、「書く」課題を仕組み、「書く」ことを意識づける。
社会	教科書を読まないときけない授業づくり。キュビナ(週末課題)の取組を徹底させる。
数学	書いたことを評価する。文章の大事な言葉、数学の用語に線を引いたり、図に書き入れたりする。
理科	単元毎に振り返りの時間を設ける。基礎的内容の繰り返し学習を行う。
音楽	(1・2年)ルーブリック基準を示す。調べ学習を宿題として出題。(3年)音読を取り入れる。クロムを使った宿題を出す。
美術	「資料提示による資格化の工夫」「計画表の活用」により、生徒自身が見通しをもって取り組めるように仕組む。
保体	学習のポイントの提示と、振り返りにおける記入例の例示による、言語化する力の育成。
技家	技:校内タイピング検定を行い、文を読む力、文を入力する力、得点の向上を挑む力を付ける。 家:場面設定での課題に対し、ローリングプレイや解決策を考え、表現する力を付けさせる。
英語	与えられた目的・場面・状況を踏まえ、また、5W1Hを意識して読み取らせる。単元テストを意識した自学ノートの取組を行う。